



子育てのセルフチェック

最近、犯罪心理学者の本を読んでいる、子供たちへの過保護・過干渉が子供たちの成長の阻害要因となっていることを学びました。発達するまで「よかれと思って」が子供にとっては「いい迷惑」という例が挙げられていました。過保護とは必要以上に保護することです。当然、子供は自立するまでの間、発達に応じて親がサポートする必要がありますが、過度に子供の要求に応えたり甘やかしたりすることが過保護となってしまいます。その中でも過度に干渉する関わり方が過干渉です。子供のやり方や交友関係にまで口を出し、ときには禁止するような関わり方です。保護者としては子供のためを思っている、なかなか自分で気づきません。

子供に影響を与える親の養育態度について、アメリカの心理学者サイモンズは、「支配」「服従」「保護」「拒否」の4つのタイプに分類をしています。自身の養育態度を振り返る参考になるので紹介しておきます。

【支配】子供に命令をしたり、強制したりする養育態度。子供は従順に育つが、自発的な行動が少なく、親の顔をうかがうようになる。

【服従】親が子供の顔をうかがうように接し、子供の言いなりになるような養育態度。子供は人に従わず、乱暴で落ち着きがないといった性格が見られる。

【保護】子供を必要以上に保護しようとする養育態度。子供は危険に対して慎重である一方で、親のいないところでは好奇心を見せる。性格的には穏やかだが、身を守る術を身に付けていない。

【拒否】子供を無視したり、拒否したりするような冷淡な養育態度。子供は神経質で落ち着きがなくなる。周囲の気を引くために反社会的な態度をとることもある。

以上の4つのタイプに大きく分かれますが、複合型になっていることが多いようです。【支配+保護】の過保護型は、子供の世話を焼き過ぎて、子供自身の成長の機会を奪っているパターンです。子供は、共感能力が低く、人の気持ちがわからない子供になります。【服従+保護】の甘やかし型は、子供の要求を何でも叶えてあげようとして甘やかすパターンです。子供は自己中心的で忍耐力のない子供になります。【服従+拒否】の無関心型は、親が子供に物を与えたり好きなようにさせたりしながら無視しているパターンです。子供は警戒心が強く、神経質で寂しがり屋になります。【支配+拒否】の高圧型は、子供に否定的な態度をとりながら命令し支配するパターンです。子供は共感性に乏しく、親の支配から逃れるため逃避的な行動をとります。

支配なら服従へ、保護なら拒否へと寄せていくことでバランスがとりやすくなります。一方的に偏らず図の真ん中の部分にいるのが理想です。

ここで気を付けなければならないのが「自由放任」です。サイモンズの分類では【拒否】にあたりますが、「子供の自主性に任せている」と言えば聞こえがいいです。しかし、親としての責任が薄い場合は危険です。ある程度の分別がつくまでは、道徳的規範や社会のルールを教えるのは当然です。自由放任は、親子の信頼関係に基づいてできることなのです。サイモンズの図をもとにセルフチェックをしてみたいはいかがでしょうか？

